

教科 (科目の種類)	学科名	学 年	単 位 数	履 修 期 間
家庭科	普通科	3 年	3 単 位	通 年 ・ 2 カ 年
	科目名	子どもの発達と保育		

目 標	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。	
概 要	乳幼児期が人間発達の基礎を培う時期であることを踏まえ、誕生から就学までの長期的視野をもち、保育所や幼稚園などで実際に子どもと触れあう学習活動や様々な体験学習を通して、子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と実践的な態度を身につける。	
授 業 計 画	学習内容	学習概要 (実験・実習等)
	<p style="text-align: center;">1 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達と保育を学ぶにあたって ・保育技術検定について <p>第1章 子どもの発達の特性</p> <p>①生涯発達における乳幼児保育の重要性</p> <p>②発達と環境</p> <p>第2章 子どもの発達の過程</p> <p>①心身の発育</p> <p>②発達の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育技術検定対策 <p>期末考査</p>	<p>《主な実習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦体験 ・沐浴実習 ・紙おむつ・布おむつの特徴 ・離乳食実習 ・ミルクの飲ませ方 ・子どものおやつ作り ・幼児のお弁当作り ・フェルトを使った名札作り ・児童文化財について ・絵本作り ・布の絵本作り ・お遊戯 ・折り紙 ・人形劇 ・資源ゴミを利用した遊具の製作
	<p style="text-align: center;">2 学期</p> <p>第3章 子どもの生活</p> <p>①子どもの食生活</p> <p>②子どもの衣服</p> <p>③子どもの遊びと生活</p> <p>④子どもの健康管理</p> <p>第4章 子どもの保育</p> <p>①保育の意義と目標</p> <p>②保育の方法</p> <p>③保育の環境</p> <p>期末考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園実習 (学期ごとに2～3回程度実施する。)
<p style="text-align: center;">3 学期</p> <p>第5章 子どもの福祉</p> <p>①子どもの福祉</p> <p>②子育て支援</p> <p>学年末考査</p>		

<p>評価の観点</p>	<p>【知識・技能】 保育の意義や方法，子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 子供を取り巻く課題を発見し，保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に取り組む姿勢】 子供の健やかな発達を目指して自ら学び，保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p>※以上の観点により総合的に評価するが特に実習、課題等の取り組み状況を重視する。</p>
<p>教材</p>	<p>実教出版 『子どもの発達と保育』</p>
<p>履修上の注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を学ぶ上で最も大切なことは、単なる知識や技術の習得のみではなく、学習した内容を実際の生活に活かすことです。学校での学習をぜひ家庭生活でも実践して楽しく健やかな家庭生活や地域活動をおこない、将来の家庭生活や地域での活動に生かせるようにしてください。 ・課題や提出物があるので、提出物の期限を守ること。 ・調理実習時は、エプロン・三角巾・手ふきタオルを持参すること。 ・実験・実習費を徴収する。 ・保育実習に際しては、身なりをきちんと整え（体育着着用）、保育士の指示に従い安全に協力して進めること。 ・保育園実習の意義を理解し、保育実習にあたっては、年長者としてのモデル的行動、肯定的な言葉の使用、禁止・注意のタイミングなどを配慮すること。 ・保育園・幼稚園実習は、実習先の受け入れ人数を考慮して、分割して実施する場合がある。